

連携へ桐生の中小企業

理化学工業など訪問



桐生市の社長らに工程を説明する大山会長(左)＝高津区で

地域を越えた企業間「業」(川崎市高津区)連携の可能性を広げようと、群馬県桐生市内などを開発した「グリーンテクノ」(同)を訪人が四日、チヨーク製れ、工場などを見学し造会社「日本理化学工」た。

東日本にある工業集積地域の二十三自治体で構成する「産業のま

ちネットワーク推進協議会」の活動の一環。これまでは自治体職員

同士の交流が中心だったが、今回は地域をまたいだ企業同士の交流

だ。「具体的にビジネスチャンスを探ってもらえれば」と、川崎市の担当者。

従業員の約七割が知的障害者の日本理化学工業では、大山泰弘会長が、障害者雇用や事業内容について説明。

訪問した社長らは、工程作業を分かりやすくする色分けした道具を使うなど、さまざまな工夫を凝らしたチヨーク製造工場を見学し、熱心にメモを取って

いた。

「これを機に、ぜひ一緒に商品開発をしたい」と意気込むのは布製のポータブル黒板の開発を手掛ける桐生市の子ども服製造会社。

社長・松平博政さん。「桐生は繊維の町。黒板消しに使える繊維のアイデアなども出せれば」と話していた。
(平木友見子)